

校長室だより

平成18年11月29日

第 106 号

榎並っ子

大阪市立榎小学校長 小林恵子

主体的に学ぶ子どもたち

本校では、本年度算数科を研究教科とし、子どもたちにとって「わかる、できる、楽しい算数科学習」について研究を進めてきました。

「榎並っ子」でも紹介したように、6月には6年生の授業、10月には4年生と3年生の授業が行われました。回を重ねる毎に、研究主題「わかる、できる、楽しい算数科学習をめざして - 基礎・基本の定着を図る指導の工夫 - 」に迫るための方向性が明らかになってきました。

さて、これまでの成果を踏まえ、11月8日に1年生の授業、11月24日に2年生の授業が、それぞれの学級で行われ研究を深めました。

＝ 1年生の授業 ＝

単元名は「ひきざん」で、目標は、(十何) - (1位数)の減法で、繰り下がりのある計算の仕方を考え、計算できるようになるです。

当日は、「(十何) - (1位数)で、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考える。」という目標で、授業が行われました。まず、ひきざんの式を使う問題であると、15 - 8の答えの求め方について考えるという学習課題が、子どもたちに提示されました。子どもたちは、1位数と1位数の繰り上がりのある加法の学習、10までの数の合成・分解、10を越えて20までの数の構成の学習など既習学習をもとに、与えられた式の答えを求めていきます。

子どもたちは、ブロックを使ったり図を書いたりしながら一生懸命考え、1年生とは思えないほど実にいるいろいろな方法で答えを求めていました。先生や友だちの話をしっかり聞き学んでいる姿に感心させられました。



＝ 2年生の授業 ＝

単元名は「かけざん(2)」で、目標は、倍の意味を理解し、何倍の大きさを式で表すことができる かけざんに関して成り立つ性質を理解し、それをもとに6, 7, 8, 9, 1の段の九九を構成しようとする 6, 7, 8, 9, 1の段の九九を知り、正しく唱えることができる 九九の有用性を知り、これを活用することができるです。

当日は、「乗数と積の増え方の規則性を理解し、それをもとに9の段の九九を構成しよ



うとする。」という目標で、授業が行われました。まず、「リ - ス1つにつき9枚の葉」をもとに、9の段の九九のヒミツについて考えるという学習課題が、子どもたちに提示されました。子どもたちは、既習学習（2から8の段の九九の構成）をもとに、9の段のヒミツ（規則性）について、見通しを立て考えていきました。

大人では考えつかないような規則性を次々と見つけ、自信をもって積極的にみんなの前で発表する子どもたちの姿が印象的な授業でした。

【高齡者疑似体験学習】 - 6年生が貴重な体験 -

11月21日に、6年生が、総合的な学習の時間に、城東区在宅サ - ビスセンター - ゆうゆうのみなさまをゲストティ - チャ - としてお迎えし、高齡者疑似体験学習をしました。

4人が1組になり、全員が装具を付け高齡者疑似体験をしました。装具を付けることにより、本を読むこと 決められた場所に名前を書くこと 障害物をまたぐこと 洗濯物を干したりたたんだりすること 階段を上り下りすること 寝た姿勢から起き上がることなど普段不自由なくできていることが、思い通りにできにくくなるということを子どもたちは体験しました。

高齡者疑似体験をした後、ある子は、次のようにまとめていました。

《自分が高齡者疑似体験をして気づいたことや考えたこと》

腰が痛い・補助してもらわないと歩けない・小さい段差でも怖い・階段が怖い

《自分が補助をしてみて気づいたことや考えたこと》

階段で、おじいさんやおばあさんが困っていたら助けてあげよう

6年生にとり、お年寄りの身になって考えるための貴重な体験となりました。

